（特非）　日本チョウ類保全協会

国内でもっとも絶滅のおそれのあるチョウ類および昆虫類の保全体制の構築

活動地域　日本全域

ひろげる助成
3年目
実　践

保全活動を実施した対象地	4か所
保全活動参加人数	72人
今年度計画の達成度	80％
目標達成度	75％

アカハネバッタの保全作業（草刈り）

苦労した点と工夫した点

■苦労した点

保全対象は非常に危機的な種であり、近年の異常気象や気候の変動が悪影響を与えている可能性があり、生息状況を好適に維持することが難しくなっている。

■工夫した点

対象種の生態を十分に把握し、保全のカギとなっている部分を明らかにし保全方法を考えることで、効果的な保全対策を実施することができた。

課　題

自然環境の悪化とともに、チョウや昆虫類の絶滅危惧種の総数は年々増え続けている。しかし、これらを保全するための取組みは不足しており、危機的な種が少なくない。

目　標

対象チョウ・昆虫類の生息環境が改善されるとともに、生息状況が良くなり、対象種の絶滅リスクが低減する。そして、保全するための地域の体制が確立する。

活動内容と成果

- ●対象地域は4か所で、それぞれで、チョウ、昆虫類の生息状況・生息環境の調査、生息環境の保全作業、地域の保全体制の構築、の三つの活動について取組みを行った
- ●生息個体数は、1種では活動前の約400%へと大きく増加し、2種では生息個体数が120%以上と増加傾向となった。1種では50%程度にまで減少したが、重点的な保全対策を実施し、絶滅を回避する取組みを行った
- ●地域への働きかけを行い、4か所ともに活動を継続するための体制が構築され、地域の方と保全活動を協働して行うことができる体制ができた

アサマシジミの保全作業（草刈り）

フサヒゲルリカミキリの保全（食草の植栽）

全助成期間の活動を振り返って

活動当初、対象の4種はそれぞれ非常に危機的な状況におかれており、保全活動によって、生息環境を改善し、生息個体数もほとんどが活動開始前より増加したが、安定した生息にまで回復させていくことは非常に困難であることが再認識された。良好な自然環境を復元するためには、大規模な活動が必要であり、そのために、地域住民、地域団体、地域行政等との話し合いや協働作業を行ってきたが、十分な体制の構築までには至らなかった。

〒140-0014
東京都品川区大井4-1-5-201
電話：03-3775-7006
E-mail：jbcs@japan-inter.net
HP：http://japan-inter.net/jbcs/

今後の展望

対象とする4地域ともに、安定した生息環境を復元することは非常に困難であるが、今後も地域の関係者と協働し、絶滅をくい止めながら少しずつ活動を広げ、十分な保全活動を実施できるように活動を進めていく。生物多様性の保全についての社会的な理解は年々進んでおり、活動の担い手を増やしていくことは可能であると思われ、今後は普及・啓発活動にさらに重点を置いた取組みを行っていきたい。